

第 2 回 那須塩原市廃棄物減量等推進審議会議事要旨

| | |
|-------|---|
| 日 時 | 令和 4 年 7 月 21 日 (木) 10:00~12:00 |
| 場 所 | 那須塩原市役所 2F 202 会議室 |
| 出席状況 | <p>18 名中 15 名出席：過半数の出席者により会議成立 (那須塩原市廃棄物減量等推進審議会条例第 6 条第 2 項)</p> <p>委 員 : 陣内会長、橋本副会長含め 出席委員：15 名 欠席委員：9 名</p> <p>事務局 : 市民生活部長、廃棄物対策課長、補佐、係長、主査、主事、委託業者 3 名 計 9 名</p> |
| 議 事 | <p>《開会》 《挨拶》 《委員紹介》 《会長及び副会長の選任について》(報告資料 1) 《那須塩原市一般廃棄物処理基本計画策定の諮問について》(報告資料 2) 《審議事項》 (1) 那須塩原市のごみ処理状況及び那須塩原市一般廃棄物処理基本計画(現行)の進捗状況について(審議資料 1-1、1-2) (2) 那須塩原市一般廃棄物処理基本計画(次期)策定に係る市民アンケート結果について(審議資料 2) (3) 那須塩原市一般廃棄物処理基本計画(次期)について(審議資料 1-1、1-2) (4) その他 《その他》(その他資料 1)</p> |
| 議事の概要 | <p>《開会》 事務局より審議会成立の報告と注意事項等の連絡があった。 → 傍聴は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み実施しない。 会議資料、議事要旨について後日、市ホームページで公表する。</p> <p>《挨拶》 陣内会長より挨拶があった。</p> <p>《委員紹介》 各委員自己紹介及び事務局紹介があった。</p> <p>《会長及び副会長の選任について》 (報告資料 1) により事務局説明。 (質問なし)</p> <p>《那須塩原市一般廃棄物処理基本計画策定の諮問について》 (報告資料 2) により事務局説明。 (質問なし)</p> <p>《審議事項》 (1) 那須塩原市のごみ処理状況及び那須塩原市一般廃棄物処理基本計画(現行)の進捗状況について (審議資料 1-1) により事務局説明。 → 基本計画資料については数値や表現等、今後変更となる可能性がある。 (上位計画である市総合計画における人口推計の見直しや、直近の廃棄物処理実績の集計結果等による。)</p> <p>(委 員) ・ 資源化率が上がっていないのは民間事業者の回収が増加している影響とあったが、民間事業者が回収している実績は把握しているか。</p> |

[事務局]

- ・ 民間事業者が回収している資源は、廃棄物ではなく有価物としてポイントを付与するというような運用をされており、市では把握できていない。

(委員)

- ・ 素案 P53 の図の令和 3 年度の生活系ごみ排出量の原単位 638g/人・日は、素案 P68 の表の令和 3 年度の実績値ではどれと関係しているか。

[事務局]

- ・ 補足目標 4、5、6 を足し合わせると整合が取れる。

(委員)

- ・ 素案 P55 の図の令和 3 年度の最終処分率が増加しているのは東日本大震災の影響とあったが、これは令和 3 年度だけの特出的なものか。

[事務局]

- ・ 放射能濃度が 8,000Bq/kg を超える指定廃棄物の影響によるものである。平成 23 年度から平成 25 年度の 8 月の途中までの間に処理された焼却灰の放射能濃度が 8,000Bq/kg を超えたため埋立処分ができず、那須塩原クリーンセンターに一時保管されていた。近年、放射能濃度を再測定したところ全量の 2/3 程度が 8,000Bq/kg を下回っていたため、令和 3 年度に指定解除を行い、通常の埋立てを行った経緯がある。そのため、特出的に令和 3 年度最終処分率が増加した。全量の 1/3 程度は残っており、今後最終処分率が多少増加することは考えられるが、令和 3 年度のように一度に最終処分率が大きく増加することはないと考えている。

(委員)

- ・ 指定廃棄物のような一過性の最終処分量を差し引いた最終処分率はどれくらいか。また、指定廃棄物は数年間で発生されたとあるが、それらを発生した年で按分した場合、過去の最終処分率の目標達成はどうなっているか。

[事務局]

- ・ 過去のデータを確認し、後日回答する。

(2) 那須塩原市一般廃棄物処理基本計画（次期）策定に係る市民アンケート結果について（審議資料 2）により事務局説明。

(委員)

- ・ WEB アンケートであるため 10 代、20 代の回答数が増加するのではないかと期待していたが、10 代は 0%、20 代は 3.7%と少なく意外な結果であった。
- ・ 自由回答は良いアイデアが多数あるため参考にしていきたい。

[事務局]

- ・ 自由回答については適宜検討の上、施策に反映したい。

(委員)

- ・ 10 代、20 代の回答数が少ないが、将来に向けた基本計画の策定であるため、1995 年以降に生まれた Z 世代を対象にしなければ将来のビジョンは描けないと感じている。
- ・ 残念なのはアンケートの「(5) ごみ減量やリサイクルの問題点」において、「手間がかかる」という回答が 6 割を占めており、市民の意識が非常に低いということを痛切に感じている。地球温暖化等の問題も叫ばれているが、我々の問題であると捉えるような市民の意識を醸成させる必要がある。

[事務局]

- ・ 市民の方が自らリサイクル等に参加して楽しく取り組めるような施策を考えていきたい。

(委員)

- ・衣類は可燃ごみとしているが、可燃ごみとして焼却する費用とウエス等の資源物として流通させたときの費用を比較しながら衣類の資源化について検討してほしい。
- ・生ごみは一部堆肥化をしているが、市民の意識を高めるためにも生ごみだけを収集する日をつくることで資源化に繋がり、可燃ごみの焼却量が減らせると考えている。生ごみの分別は排出者の意識向上が必要なため簡単な問題ではなく、収集品目が増加することで費用もかかるが、市のサービスとしてさらに資源化を進めるためにも検討していただきたい。

(会長)

- ・(3)での意見として扱う。

(3) 那須塩原市一般廃棄物処理基本計画(次期)について

(審議資料1-1、1-2)により事務局説明。

(委員)

- ・社会福祉協議会では市内15箇所の公立公民館に賞味期限が1ヵ月程度あるインスタント麺やレトルト食品等を回収する「もったいないボックス」を設置して必要な方に提供している。再使用、再生利用の促進という点で協力できるかもしれない。
- ・ごみ出しができない高齢者や要介護者に対し自治会等と連携した活動が可能と考えている。

[事務局]

- ・「もったいないボックス」の設置は把握しており、ごみの減量だけでなく生活に困った方への支援を考えている。また、拠点回収の場所についても増やしていきたい。ごみ出し助け合いの連携については市でも検討している状況であり、例えば、ごみ出しの時間帯によりヘルパーによるごみ出しが難しい方は、ステーションの回収時間を過ぎてもごみを持ち込み可能な場所を確保出来ないかなどを検討していきたい。自治会との連携も考えている。

(委員)

- ・市民のアンケート結果を見ても、市民の多くは生ごみを可燃ごみとして捨てている。私は機械式生ごみ処理機を今年の5月から使っているが、3人家族で5月：600g/日、6月：601g/日、7月(20日まで)：687g/日、3ヶ月平均：630g/日であった。先ほど委員から生ごみの分別収集の提案があったが、生ごみの取扱いはどのように考えているか。

[事務局]

- ・生ごみの取扱いは難しいと考えている。コンポスト容器や機械式生ごみ処理機の購入補助を行っているが、家庭系ごみでは保管が難しいこと、異物の混入も多いことによる再利用の難しさ、保管や収集の仕方等に問題があり、個別での対応をお願いしている。市でも給食センターでは堆肥化センターに持ち込んでいる。市では現状良い方法が見つかっていない。

(委員)

- ・生ごみの処理についてはさらに検討していただきたい。生ごみは可燃ごみにするのではなくて、生ごみや家畜糞尿、木くずをバイオマスとして活用する、バイオマス発電施設を作っていただきたい。愛知県豊橋市では生ごみや下水汚泥、し尿・浄化槽汚泥をメタン発酵させて発電をしているが、豊橋市に出来ることが那須塩原市にできないことではないと思うので、堆肥化だけでなく、検討していただきたい。

[事務局]

- ・那須塩原市では下水汚泥を用いたバイオマス発電はしていないが、栃木県では流域下水道で行っている施設もある。また家畜のふん尿を用いたバイオマス発電もあるが、液肥の処理や採算性の問題も出ている。市に気候変動対策局もできたため今後の課題とさせていただきたい。

(委員)

- ・ 生ごみの分別について、一軒家では取り組めるかもしれないが、アパートの住民等は可燃ごみの袋に生ごみやその他可燃物を分けずにそのまま入れてしまっているのが現状だと思う。那須塩原市でもアパートは沢山あり、分別したごみを置いておくスペースが無い。生ごみの袋にスペースがあると、紙ごみも入れて出してしまうのが現状。そのため生ごみだけの分別は難しいと感じている。

[事務局]

- ・ 分別に関しては、行うことの必要性、重要性や分別されたごみがどのように資源化されているか等、市の情報発信不足であると感じているため、さらなる情報発信について検討させていただきたい。

(委員)

- ・ 全国平均より那須塩原市が後れをとっている項目はあるか。

[事務局]

- ・ 事業系ごみは全国平均と比較して高い傾向にあるが、コロナの影響で事業系ごみ量が減少したことにより目標が達成されている。そのため、産業を活発にしながら事業系ごみを減らしていければと考えている。

(委員)

- ・ 市民、事業者と行政との情報交換が進まないのが問題ではないか。塩原温泉は旅館が約 50 軒あり、事業系ごみは減少していたが、アフターコロナに向けた動きとして大型旅館の買収や大型のホテルの新規オープンに伴い事業系ごみが増加すると考えている。
- ・ 個別に旅館関係者が集まり、行政の方と検討する機会があってもいいのではないかと思う。

[事務局]

- ・ 小規模な単位で生ごみを用いたバイオマス発電をしている事例もあるため、市に相談してもらい、情報共有を図りながら、連携を深めていきたい。

(委員)

- ・ 生ごみの減量方法として、市民にも分かりやすい具体的な削減案の提案があると良い。

(委員)

- ・ 私は農家であり、生ごみはたい肥にしているため、混合排出されているという他の家庭での生ごみの出し方についてはよくわからない。
- ・ 機械式生ごみ処理機は現状どれだけ使われているのか。利用者が少なければもっと宣伝してもいいのではないか。

[事務局]

- ・ 機械式生ごみ処理機等の購入補助を行っており、年間予算約 80 万円で 1 件平均 2 万円の補助として約 40 件程度の申請が出てくる状況である。今年度の予算は残り僅かであり、受付を早期に締め切る可能性がある。処理機の貸し出し含め好評をいただいている。予算は限られているが、規模の拡大はできていないが、制度としてはうまく回っている状況である。

(委員)

- ・ 生ごみは異物が混入している状況があるため、生ごみは生ごみ専用のごみ袋とその他可燃ごみは従来の可燃ごみ用ごみ袋として用意しないと生ごみだけを区別することは難しいと思う。

(委員)

- ・ 学校の現場では ICT 化による会議資料をタブレット・パソコンで閲覧にすることで、紙媒体等の資源の節約を行っている。また社会科の授業等では環境学習やごみの減量についても学んでいるため、意識を高めていくことで将来的にはごみ問題の解決に近づくのではないかと思う。

(委員)

- 年度の標記は総合計画やその他の計画と同様に西暦も併記すること。

(会長)

- 計画目標の達成はインセンティブや規制、奨励等による様々な施策を同時並行で進めなければならない、難しいことではあるが、それを実行するうえで大切なのは市民の協力である。令和 14 年度の目標値が個人にとってどのような意味があるのかを理解し、それが誰でもできるということを丁寧に情報発信する必要があると改めて感じた。委員の皆様の意見を基本計画に反映していただきたい。

(4) その他

(特になし)

《その他》

今後のスケジュールについて（その他資料 1）により事務局説明。

以上